【第４回都市農業の振興に関する検討会】

資料２－３

加藤（義）委員提出資料

都市農業施策の要望

１　都市農地の都市計画上の位置づけ

２　（仮称）都市農業振興法の制定
①都市版認定農業者制度の創設
例）・体験農園経営の新たな都市農業経営形態として位置づけ
・大阪府の農空間保全に関する条例
②生産緑地の農業経営基盤強化促進法への位置づけ
③都市農地の持つ多面的機能の確保と数値目標　（下記）

３　都市農業が継続できる税制、相続税納税猶予制度の堅持

４　農業者が国等へ補助金申請するにあたり、事業計画、補助金交付申請、事業実情報告等の書類作成の負担軽減になるよう、事務手続きの簡素化。また広域の団体にも日本農業発展に必要と判断できれば申請が出来るようにする。

③　多面的機能の数値化
都市農業の持っている役割や機能（多面的機能）を充実し都市住民や地域住民にとって評価の高い農地を目指す。地域に無くてはならない、揺るぎないものとなるようこれらの機能を数値化し目標に近づけるための施策を行う。多面的機能の効果を数値化し、示すことで農家の意識を高め更に国民の理解を促進する。

地産地消
庭先販売や共同直売所の充実。（旬や鮮度、品種を吟味し栄養価の高い機能的野菜を充実し都市農業ブランドを育成する）　（直売所数）
農商工連携による地場野菜提携レストラン（農家レストラン）や加工品販売の充実を図る　（設置数）
ウネ売り販売や観光農園の充実　（農家数）

食　育
学校や市民への農業体験支援　（体験人数）
学校給食への材料供給　（学校数）
農的生活の推進（農業体験農園や市民農園の充実）　（設置数）

防災機能
各自治体との災害協定の締結　（協定数）
災害用井戸設置（発電機、簡易浄水器など含む）　（設置数）
炊き出し等対応する災害用ハウス資材などのストック（設置数）
仮設住宅、資材置き場、仮設トイレ等の提携　（協定数）

農業生産
農地稼働率を％で表す　（数値）

目標農業生産額の達成　　（数値）
都市型認定農業者　　（数値）

景　観

屋敷林、蔵の保全　　（数値）
畑の周囲の環境整備（フェンス、土留め）（数値）
沿道に花や生け垣を植える　　（数値）
景観作物の栽培　　（数値）

目　標

行政ごとに数値目標を定め目標に近づくよう努力する。不足する項目には予算を配分し達成するよう努力する。農家も個別に数値評価に参加することができる。
（個別農家には別途の評価法が必要）これらの数値は農業委員会が判断をする。
個人で図３のように達成し５年間維持した農家は仮称スーパー認定農業者として表彰し都市農業の啓発を図る。
仮称「多面的機能チャート」を利用し多面的機能を分かり易く表示し、農地や農業の価値観を高めることで、国民及び農家（後継者など）が都市農業、農地の必要性を深く理解する事ができる。

図１　　仮称　多面的機能チャート

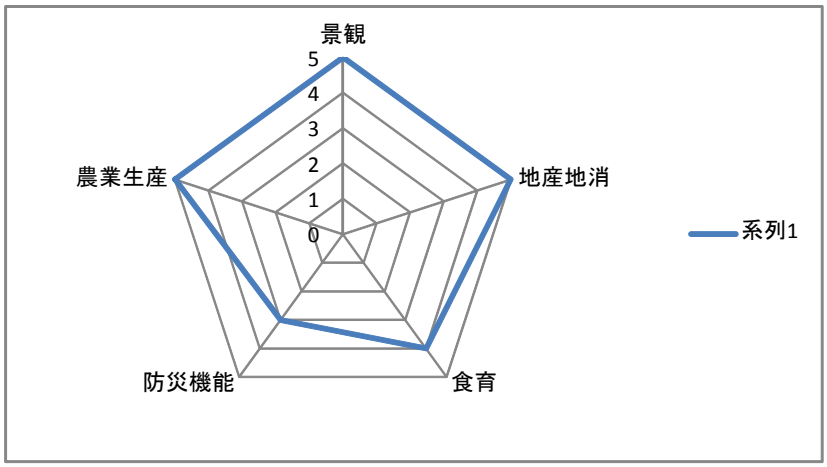


図２

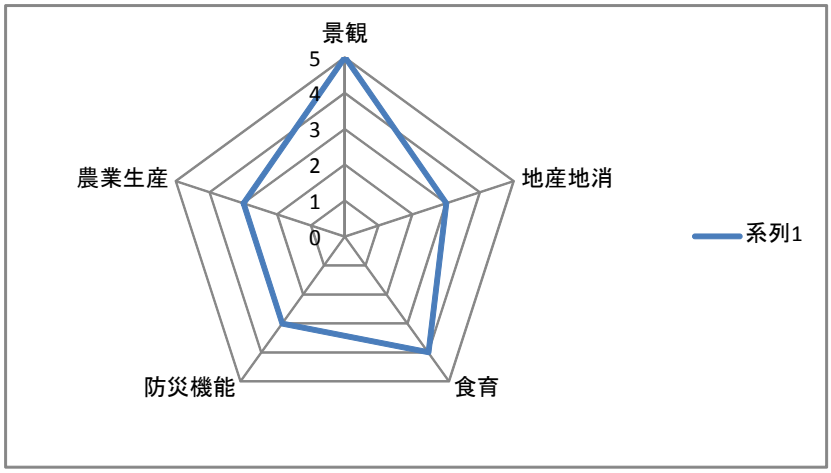
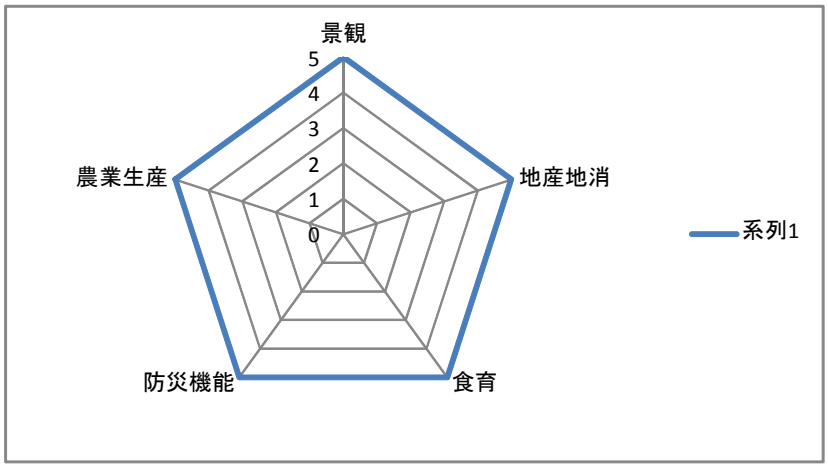

景観
5
4
3
2
1
0
地産地消
食育
防災機能
農業生産
系列1

図３


景観
5
4
3
2
1
0
地産地消
食育
防災機能
農業生産
系列1